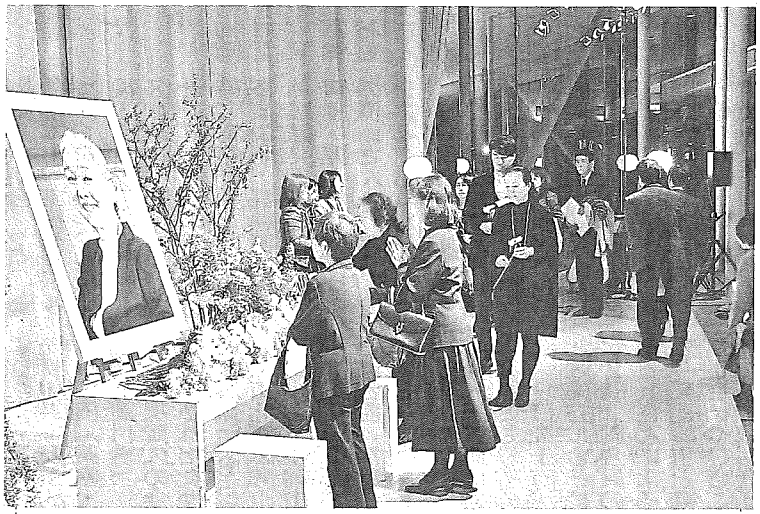
山陽新聞　2017年(平成29年)3月30日　木曜日

note

福武純子さんへ「感謝の集い」

子どもたちに未来を
人柄しのび献花に列



ステージ上の遺影に献花の長い列ができた「感謝の集い」＝21日、岡山大Ｊホール

2月に69歳で亡くなった福武教育文化振興財団理事長福武純子さん。「子どもたちが未来を描けるような社会にしたい」と郷土の教育、文化の振興に尽力した功績をしのぶ「感謝の集い」が岡山市内で開かれ、関係者ら約400人が病と闘いながら若者たちを応援した優しい人柄や思い出を語り合った。

福武さんはベネッセホールディングス名誉顧問・福武總一郎氏の妹で2010年に帰郷。岡山大の「美しい学都」構想に共鳴し私財約10億円を投じ、13年に世界的建築家ユニットSANAA設計の「Junko Fukutake Hall」（Jホール、岡山市北区鹿田町）、翌年「Jテラス」（同津島中）を贈呈。15年からは同財団理事長として、岡山が生んだ世界的画家国吉康雄の研究講座も寄付した。

ガラス張りの開放的なJホールで開かれた集いで、森田潔同大学長は「大きな力と勇気を与えてもらった」と感謝。SANAAの西沢立衛代表は「垣根を越える交流、多様性への愛情、人間の力への期待といった純子さんの思想がそのまま建築になった」と語った。

福武さんの支援は病児保育、18歳選挙権の啓発など今まさに力を必要とする人たちに向けられた。献花には長い列ができ、弦楽器の生演奏や、須賀みほ東京芸術大准教授の美術史講演と花柳大日翠さんの日本舞踊という異色のコラボレーションも繰り広げられた。長男の英明さんは「何より多くの人に新たな交流が生まれたことを喜んでいた」と打ち明ける。

福武さんが生前大切にしたのは「セレンディピティ（思わぬ発見）」。Jホールができたのも岡山大の先生と偶然同席したことからだった。Jホール、Jテラスを核に人々が集い、自由で豊かなコミュニケーションやセレンディピティが生まれることを願う。（松山定道）